

小学校 第5学年 音楽 音の重なりを感じ取ろう (教育芸術社 小学生の音楽5)

○題材の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏する技能や各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。 ・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解する。	・歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。 ・器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。 ・鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。	・主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする。

○探究の過程

①課題の設定	リコーダーの演奏や合唱を通して、音を合わせることにについての難しさやよさを感じ取る。
②情報の収集	リコーダーの演奏と、合唱それぞれについて、音の合わせ方を身に付ける。
③整理・分析	リコーダーの演奏と、合唱を通して考えた音が重なり合うことのよさや難しさについて話し合う。
④まとめ・表現	「アイネ クライネ ナハトムジーク」を聴き、これまで学んだ「音を合わせること」についての考えをまとめ、共通点を見付ける。

○単元計画 (5時間扱い)

時	目標	学習活動	探究の過程
1	旋律を感じ取りながら演奏することができる。	・「小さな約束」の全体の感じをつかんで演奏する。 ・自分の音や友達の吹いた音をよく聴きながら、音を合わせて演奏する。	① 
2	気持ちを合わせて、互いの音を聴き、音の重なり合いを感じ取りながら演奏することができる。	・「小さな約束」を、音を重ね合わせて演奏する。	
3	曲全体の感じをつかみ、旋律の重なり方の特徴を捉えて歌うことができる。	・「いつでもあの海は」の2つの旋律が異なるリズムで重なる部分と、同じリズムで重なる部分を考えて歌う。	② 
4	音の重なり方の違いを生かした歌い方について考え、全体の構成を考えて歌うことができる。	・「いつでもあの海は」の2つの旋律について、教科書の例などを参考にしながら、主旋律とひびきを作る旋律について考えながら歌い方を考えて合唱する。	③ 
5	いろいろな楽器の旋律の重なり方の変化に気を付けながら聴くことができ、音が重なることに関する自分の考えを持つことができる。	・楽器編成やひびきの違い、曲想に気を付けて聴く。 ・合奏や合唱との違いや共通点について考える。	④ 

【①課題の設定 単元や節を貫く課題を設定させタイ】

1 題材名「音の重なりを感じ取ろう」(教育芸術社 小学生の音楽5)

2 本時の計画

目標	旋律を感じ取りながら演奏することができる。
探究の過程 課題の設定	リコーダーの演奏や合唱を通して、音を合わせることについての難しさやよさを感じ取る。

○指導過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点
導入 5分	○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応 1 「小さな約束」を聴き、気付いたことを話し合う。 ○「小さな約束」を聴き、どんなことを感じましたか。 ◆悲しげです。 ◆どちらかというといくつくりとした曲のように思います。 2 「小さな約束」の楽譜を見て、曲の特徴をつかむ。 ○楽譜を見て分かることを発表しましょう。 ◆3・4段目の音階が上下で違う。 ◆#が入っている。	一斉	◎曲の特徴を捉えるように指導する。 ◎リズム打ちなどを通じて、速さなどつかませる。
展開 35分	3 主旋律とそれに加わる和音の違いや特徴を考える。	一斉	
	音が重なるとどのような違いが生まれるか考えよう。		
	○和音というのは音の重なりを表します。 ○主旋律のみと、主旋律に低音が加わったものを聞くと、どんな違いがありますか。 ◆低音が入ると枠が大きくなったような感じ。 ◆曲が大きくなった気がする。 4 演奏の練習をする。 ○まずはそれぞれ練習しましょう。 ◆それぞれ練習に取り組む。 ○次に実際に音を重ねてみましょう。 ◆音を合わせるのが難しい。	個別 ↓ グループ	◎和音とは何かを理解させる。 ◎音を合わせるについて考えることにつながるよう働き掛ける。 ◎この後主旋律と低音両方を演奏することを伝える。 ◎グループで音を合わせる際には、教科書などを参考に、気を付けることを意識させる。
終結 5分	5 音を合わせて演奏し、分かったことを発表する。 ○実際に合わせて分かったことを発表しましょう。 ◆音を合わせるイメージを持つのが難しい。 ◆合わせるためには相手の音を聴く必要があることが分かった。	一斉	◎音を合わせることが難しい場合でも、それを感じた上で、次回への課題とする。

第5学年 音楽科学習指導案(第3時)
【②情報の収集 知識・技能を身に付けさせたい】

1 題材名「音の重なりを感じ取ろう」(教育芸術社 小学生の音楽5)

2 本時の計画

目標	曲全体の感じをつかみ、旋律の重なり方の特徴を捉えて歌うことができる。
探究の過程 情報の収集	リコーダーの演奏と、合唱それぞれについて、音の合わせ方を身に付ける。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 5分	1 前時までの学習を振り返る。 ○「音を重ね合わせる」ときに、どんなことに気を付けましたか。 ◆相手の音をよく聴いた。 2 合唱で音を重ね合わせることにについて考える。 ○「いつでもあの海は」を聴き、合唱でも音を重ね合わせることにについて考えましょう。 ◆旋律が途中から2つになる。 ◆同じリズムで歌う声と、追いかけて歌う声がある。	一斉 一斉	◎合奏で「音を重ね合わせる」ことの難しさやよさを振り返る。 ◎どんなイメージの曲か考えさせる。 ◎和音になっていることを確認させながら聴かせる。
旋律の重ね合わせ方を考えて「いつでもあの海は」を歌おう。			
展開 35分	3 「いつでもあの海は」を歌う。 ○曲のイメージを感じながら歌いましょう。 ○教科書を参考に、旋律の重なり方について考えてみましょう。 ◆同じ旋律を歌うところと歌わないところがあります。 4 旋律の重なり方に合った歌い方の工夫を考える。 ○曲の中で旋律の重なり方が違うところを見付けましょう。 ◆追い掛けるようになっています。 ◆同じリズムだけど、音が違います。 5 旋律の違いによる歌い方の工夫に気を付けながら二部合唱する。 ○学んだことを生かして二部合唱をしよう。	一斉 個別 グループ	◎曲の構造として「全員で同じ旋律を歌う」「2つの旋律を異なるリズムで重ねて歌う」「2つの旋律を同じリズムで重ねて歌う」部分があることをつかませる。 ◎教科書の言葉や児童の発言などから、「重なり」と「呼び掛け合う」ということに気付かせ、歌うときのイメージを持たせる。 ◎考えたことを意識させる。
終結 5分	6 本時の学習を振り返る。 ○二部合唱をして音の重なりについて、考えたことを発表しましょう。 ◆合奏でも合唱でも音が重なると豪華な感じになる。	一斉	◎考えた歌い方をきちんと表現することができたか確認する。

情報の収集



第5学年 音楽科学習指導案(第4時)
【③整理・分析 情報を分析させタイ】

1 題材名「音の重なりを感じ取ろう」(教育芸術社 小学生の音楽5)

2 本時の計画

目標	音の重なり方の違いを生かした歌い方について考え、全体の構成を考えて歌うことができる。
探究の過程 整理・分析	リコーダーの演奏と、合唱を通して考えた音が重なり合うことのよさや難しさについて話し合う。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 5分	1 前時までの歌い方を振り返る。 ○これまで学習した「音の重なり」はどのようなものでしたか。 ◆和音。 2 「いつでもあの海は」を聴き、振り返ったことを確認する。 ○「いつでもあの海は」では、どんな特徴がありましたか。 ◆2つの旋律があるけど、リズムが違うところと同じところがあったね。	一斉 一斉	◎教科書の言葉や児童の発言などから、「重なり」と「呼び掛け合う」があったことを想起させる。 ◎「重なり」と「呼び掛け合い」を意識して聴くように指導する。
展開 30分	3 旋律の重なり方の違いを生かした歌い方について話し合う。 ○楽譜の3段目と4段目の違いについて考えましょう。 ◆強弱記号が違う。 ○どんな海の様子をイメージして歌うか考えましょう。 ◆旋律もなだらかな感じ。 4 旋律の重なり方の違いを意識して、二部合唱する。 ○旋律の重なり方の違いを生かした歌い方と、海の様子を意識して、歌いましょう。	一斉 一斉	◎前回までに気付いた旋律の違いに加えて、それぞれの音量や、波のイメージなどを加えて歌うよう指導する。 ◎クラスの人数を3つに分け、2:1の人数で主旋律とひびきを作る旋律を歌わせ、どちらが多い方がよいか考えさせる。 ◎これまで学んだことを生かして歌うように指導する。
終結 10分	5 これまでの学習を振り返り、「音を重ね合わせる」ことについて考え、発表する。 ○合唱と合奏で「音の重なり合い」を勉強したけれど、同じところや違うところ、気付いたことはありますか。 ◆音が重なり合うと豪華になる。 ◆ただ重なるだけでなく、音を合わせることが大事だったし、それが難しいことだと思う。 ◆曲の雰囲気が変わる。	一斉	◎合奏と合唱における「音の重なり合い」について考えさせる。 ◎なかなか出てこない場合は、難しかったことや感想などを発表させ、そこから音が重なり合うことのよさや難しさにつなげる。 整理・分析  ◎「音を重なり合い」のよさや難しさばかりが出てきた場合、次時の鑑賞で、その効果も見ていくように指導を進める。

第5学年 音楽科学習指導案(第5時)
【④まとめ・表現 次の課題を見付けさせタイ】

1 題材名「音の重なりを感じ取ろう」(教育芸術社 小学生の音楽5)

2 本時の計画

目標	いろいろな楽器の旋律の重なり方の変化に気を付けながら聴くことができ、音が重なることに関する自分の考えを持つことができる。
探究の過程 まとめ・表現	「アイネ クライネ ナハトムジーク」を聴き、これまで学んだ「音を合わせること」についての考えをまとめ、共通点を見付ける。

○指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点
導入 5分	1 前時まで気付いたことを振り返る。 ○「音を重ねる」「音を重ね合う」とはどんなことでしたか。 ◆「音を重ね合わせる」のは難しかった。 ◆「音を重ねる」と雰囲気が変わるのは合奏と合唱どちらも同じ。	一斉	◎前時まで学んだ「音の重なり」と「音の重なり合い」について確認する。 ◎児童の発言を板書し、まとめの場面で生かせるようにする。
展開 30分	2 合奏のひびきや曲想の変化について考える。 ○「アイネ クライネ ナハトムジーク」を聴き、合奏のひびきや曲想の変化について考えよう。 ◆聴いたことがある。 ◆バイオリンなどの弦楽器を使っているみたいだ。 3 これまでに学んだ重なり方との違いや共通点を話し合う。 ○「アイネ クライネ ナハトムジーク」を聴き、合唱や合奏との「音の重なり合い」の違いや共通点を考えよう。 ◆「重なる」というところでは、色々な楽器を重ねていた。 ◆「いつでもあの海は」は呼び掛け合う感じで、こちらの曲は繰り返す感じ。 ◆全員で同じところを演奏しているところがあるのは変わらない。	一斉 個別 ↓ グループ	◎演奏に使用されている楽器の数に注目させ、音が何種類重なっているか考えさせるようにする。 ◎楽章の構造を図に示す。 ◎3種類の重なり方で構成されていることを捉えることができるようにする。 ◎前回までに学んだ、「重なり方」「呼び掛け」について想起させる。 ◎考えが出てこない場合は、感想などから考えを引き出すように働き掛ける。 ◎これまで学んだ曲をもう一度聴いたり、歌ったりして、気付き直す場面を設けてもよい。
終結 10分	4 学習の振り返りをする。 ○音を合わせて演奏や合奏するときに気を付けることを考えましょう。 ◆音を重ねるときに、友達と息を合わせること。 ◆音の重なり方には種類があること。	一斉	◎自分が歌ったり演奏したりするときに生かすことを意識させる。 まとめ・表現 